

「校長たより」にアクセスいただいた皆様

「校長たより」にアクセスしていただき、ありがとうございます。今回は、次の3つを掲載いたしました。

○「Yes, and 話法」で話そう～どの人とも嬉しくなる気持ちで対話するために～

①きらっと光る子どもたちの生の声

○生徒たちの感性はすごい！～中学部キルト展の鑑賞から 6/7 金～

②キラッと輝くエピソード

○打てば響く子どもたち ～5月・6月の全校朝会での話から～

③本校の教育活動

○空気感が違う～人につかず、場につく支援をみんなで追究 中学部職業基礎～

○これでもか！～誤配付を徹底的に防ぐ柳事務さんの対策追究～

○知らないことは、お互いを不幸にする～同世代間交流のスタート～

お読みいただき、本校の教育活動にご理解いただくとともに、ご指導ご助言いただきますようよろしくお願い申し上げます。

校長 上松 武



令和6年7月4日



チームふれあい 27人の先生方へ

「なかよく たのしく たくましく」生きる

子どもの育成を目指して⑦ -0704 職員会議-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう！幸せにしよう！～

上松 武

○「Yes, and 話法」で話そう

～どの人とも嬉しくなる気持ちで対話するために～

・宇都宮市教育センターの金子渉所長様が『かすたネット通信』第24号で、「Yes, and 話法を使いこなそう」と題して書かれていました。少し引用します。

- ・この「Yes, and 話法」とは営業職に必須とされる「応酬話法」の一つだそうです。
- ・相手（顧客）の話を聞いて、「いいですね」「そうですね」と肯定的に受け止め、その上でこちらが言いたいこと（提案したい情報）を上乗せして相談に伝えていく話し方を言います。
- ・相手を肯定してから「そうしたら」「それなら」「では」などの否定語以外の言葉で繋いでいくことにより、ソフトな印象や安心感を与え、コミュニケーション（商談）を円滑に進めることができます。
- ・応酬話法には、相手の言動を否定する際に用いる「No, because」（～だから○○できない／してはいけない）や、「Yes, but」（いいね、でも○○だからできない）の話法があり、後者の方が角が立たずに相手を受け入れ易いとされています。ただ、Yesのあとに「でも」「しかし」「ただ」（but～）と否定されることで、相手によっては気持ちが萎えたり、反感を抱いたりして結果的には営業成績にまで響くリスクがあります。（中略）
- ・実は営業トークに限らず、あらゆるビジネスシーンや、教師が子どもや保護者と話す場合にも同じことが言えます。「No, because」の話法ばかりが目立って多く使われると、厳しい、怖い、冷たい、近寄り難いといった印象を与えてしまいます。

- ・下の図の左側は「Yes, and」、右側は「Yes, but」の例です。左側の方が、この後も建設的な話し合いになっていきそうですし、何よりも話し合いそのものが楽しそうに感じます。

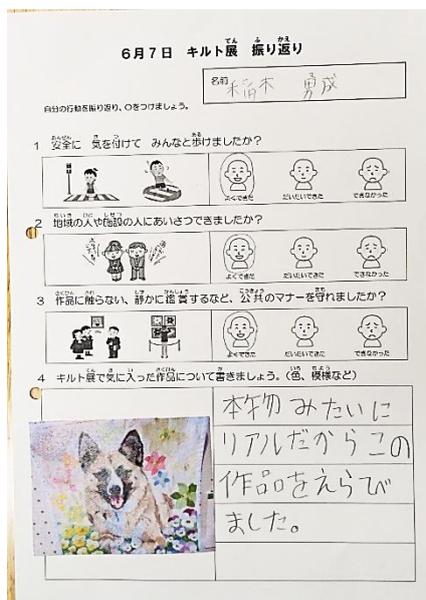
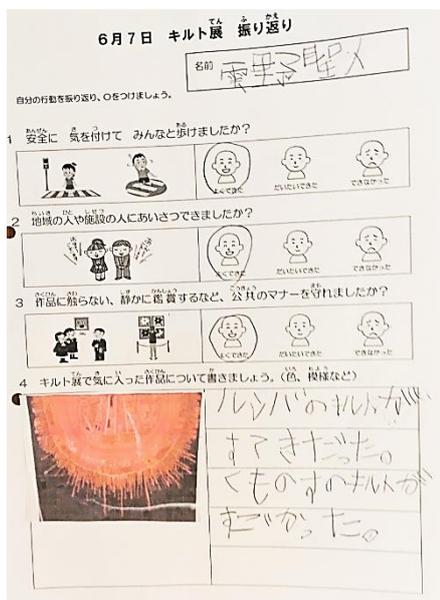


note (<https://note.com>) のホームページより引用

- ・ただし、『Yes, and 話法』はどんな場面でも使える訳ではないと金子所長様は話しています。危険度が高く緊急性のある事案などでは、即座に対応しなければいけないため、『Yes, and 話法』は適切ではありません。
- ・授業の相談や個別の指導計画作成に関する話し合いは、大いに「Yes, and 話法」でお互いの意見や考えを尊重して、楽しく建設的な話し合いをしていくようにしましょう。

1 きらっと光る子どもたちの生の声

○生徒たちの感性はすごい！～ 中学部キルト展の鑑賞から6/7金 ～



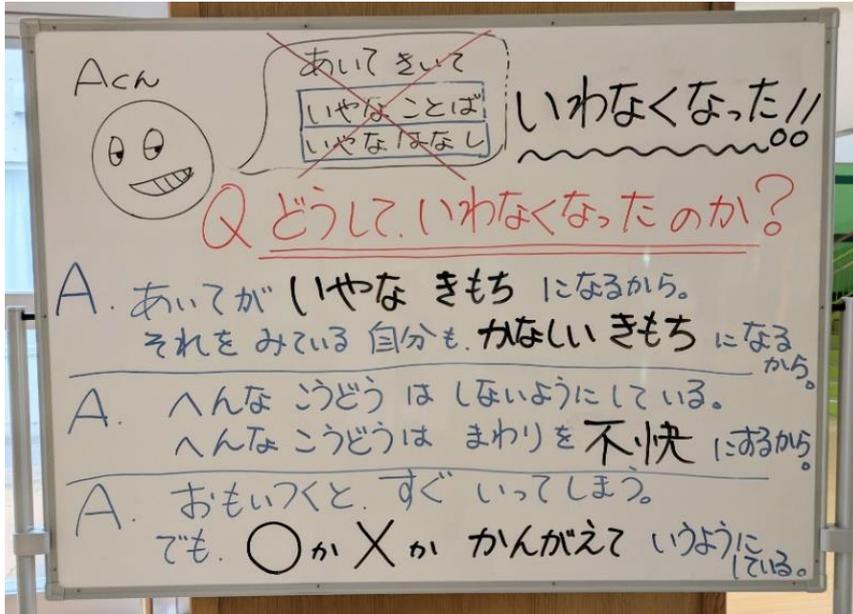
- ・十日町市が毎年開催している「キルト展」へ、中学部の生徒が鑑賞に行きました。
- ・数千点が展示されている中から、「これは！」と思う作品を選び、その理由や感想を左の振り返りシートにまとめました。
- ・全員のシートを見ながら、「ここが気に入ったので、選んだ」などのように理由が書かれていることに感じました。

- ・自分の考えをはっきり、しっかりと持ち、それを伝えられる。まさに、本校の教育活動の基本方針を具現化しているとうれしくなりました。

2 きらっと輝くエピソード

○打てば響く子どもたち ～ 5月・6月の全校朝会での話から ～

- ・5月の全校朝会で、「相手が聞きたくもない話を、面白おかしく話すことは大きな間違いである。そして、とても残念なことであり、許しがたい」と、厳しく話しました。
- ・その後も、「校長先生、〇〇さんがまた下ネタ、言っていました」と生徒からの報告がありましたが、各学級での指導の成果があり、下ネタの話も報告も聞かれな



くなりました。

- 左の写真は、6月の全校朝会で中学部の生徒3名がみんなの前で話した「人が聞いて嫌な話や言葉を言わないようにした理由」です。しっかりと考えて答えてくれました。
- 「誰が見ても、ダメなことはダメ」と指導するだけでなく、「なぜ、ダメなのか」を本人が納得するまで、先生と一緒に考えているから

ではないかと思います。これからも「なぜ」の問いかけを大切にしながら、本人が考えて答えを導くよう指導支援を続けていきましょう。

- ふれあいの子どもたちは、打てば響く子どもたちですから！

3 本校の教育活動

(1) 授業改善

○空気が違う ～人につかず、場につく支援をみんなで追究 中学部職業基礎～

- この教室に入った瞬間にピリっとした空気感を感じました。



- 生徒一人一人が自分に任された作業に取り組み、終わったら報告に行く。この繰り返しですが、

自分で考え自分で判断して行動しています。その結果を先生方が「きれいにできています」「前よりも早くできるようになりました」と称賛してくれます。自信になりますし、やりがいを感じることもつながります。

- さらに、各自が取り組んでいる作業内容がどうなっていくのかの説明を聞き、見通しを持ちます。「ただ牛乳パックのラミネーターを剥がしているのではないんだよ、次にミキサーにかけて細かくして、最後はくらしに役立つ、こんな素敵な日用品になるんだよ」と。
- このような視点はとても大切です。「分かって動ける」「行動した結果、認められ

る」「やっていることの最終ゴールが分かる」、このような視点が主体的・対話的で深い学びに一層近づいていくのではないのでしょうか。

(2) 業務改善

○これでもか！ ～誤配付を徹底的に防ぐ柳事務さんの対策追究～



- ・柳事務主任が取り扱う書類には、個人情報が多く含まれます。特に、就学奨励費に関する書類は個人情報が満載。
- ・令和4年度に窓付き封筒に変え、児童生徒氏名が見えるようにしました。今年度に入り、左の写真のように再び改善を加えました。
- ・今回の改善のポイントは、封筒をA4サイズに大きくしたこと。他の書類と混ざって、違う児童生徒に配付されないようにしたこと。
- ・どれがいいのか、何がいいのか正解はありません。最も better なやり方を常に考えて、実行する姿勢に、プロ意識を感じます。

(3) 認知度改善

○知らないことは、お互いを不幸にする ～同世代間交流のスタート～

- ・昨年度、障害のある人への差別的な発言ともとれる出来事があり、共生の理念を十日町・津南地域に広げていく必要性を痛感しました。
- ・同時に、「知らないから、分からないから、そのような言動に至るのではないか。かかわり合う機会がほとんどないことも要因の一つ」という保護者の方からの助言もいただき、今年度から「同世代間交流」を開始しました。
- ・2学期以降、下の表のように実施していく予定です。これまでの居住地校交流も兼ねて実施していきます。
- ・今の子どもたちが同世代の仲間とかかわり合うことによって、何かが違うことで排除されたり、差別されたりすることがない社会へと変わっていききっかけにしたいと考えています。

表 同世代間交流一覧

交流相手校	ふれあい交流学年	交流活動（予定）	交流実施予定日
西小学校 4年生	小学部全児童	学習発表会の内容	①10/23 ②12/6
東小学校 4年生	小学部1・6年生	名刺交換、手話歌	①9/27 ②11/22
水沢小学校5年生	小学部4・5年生	体を使った活動	①9/30
川治小学校3年生	小学部3年生	自己紹介や鬼ごっこ	①11/15 ②12/13
川西中学校1年生	中学部1・2年生	ミニ運動会	①11/15